

三中だより

令和4年度 2月号



令和5年2月1日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 14)
校長 小柴 憲一

弁論大会の学習効果

1月14日(土)3時間目に校内弁論大会を開催しました。

弁論大会を開催している中学校は、都内にたくさんありますが、そのすべての学校が同様な学習効果を目指しております。その学習効果を弁士と聴衆のそれぞれの立場で考えてみます。

子どもたちは、全員、学級弁論大会の弁士の立場になった経験がありますし、他の弁論を聞くという聴衆の立場にもなった経験もあり、両方の立場で学習をしています。



1 弁士の立場で

まず、弁士になるためには原稿を作成する必要があります。

今回、1年生は「環境」、2年生は「SDGs」、3年生は「国際理解」というテーマがありますので、そのテーマに関する自分の意見をもつ必要があります。この「自分の意見をもつ」ためには、日頃からどのようなことにも疑問をもって考える習慣を付ける必要があります。その必要性を学んだことと思います。テレビを見ていても、町を歩いている、買い物をしていても、電車に乗って他の利用客を見ている、あるいはテーマパークに遊びに行ったときでも、何か必ず疑問に感じることはあるはずなのです。それを意識化することがとても重要です。正解にたどり着く必要は全くなく、自分なりに考えてみる習慣が重要なのです。それが、何らかのテーマを与えられたとき「自分の意見をもつ」ことにつながります。

次に学んだことは、自分の意見の信頼性をいかに高めるかということです。

自分の意見の根拠になる統計などの資料や研究者の説、あるいはことわざなどの昔からの言い伝えなどがあると思います。これらを活用して説明したりすることは科学性や普遍性のある意見となり納得させやすくなります。つまり、様々な情報を図書やインターネットなどを活用して収集し、自分の意見と照らし合わせて取捨選択し、うまく適合した根拠を探しだし、自分の意見の土台となるものをつくりだし、信頼性を高めることを学んだのです。

次に学んだことは、相手意識です。

どんなに立派な意見でも、聴衆に聞いてもらえなければ弁論として成立はしません。抽象的で概念的な論旨中心になりがちな原稿にならないように、日常生活の中から具体的な体験談を組み入れたり、聴衆に問いかける質問を文章化したりすることで、聴衆に飽きさせないで聞き入ってもらうことができます。また、聴衆は聴くだけですから長い文章は理解しにくいので、できるだけ短文にまとめて、その短文をつなげていくようにします。これらは、「聴衆に聞いてもらう内容だ」という相手意識なのです。子どもたちは、自分の意見を述べるからには、聴衆の立場になった相手意識が必要だということを知りました。

次に学んだことは、自分の意見を効果的に伝えるための文の組み立てです。

論旨展開の仕方には、三段法、四段法、五段法など様々あります。子どもたちは、自分が述べようとする意見や、そもそもそう考えるようになったきっかけ、その意見の根拠となる材料、聴衆を惹きつ

ける体験談や質問などをどのように組み立てるかに応じて、適切な方法を学んだのです。

そして、弁論をする際に学んだことは話し方です。

話すスピード、声のトーン、さらにリズムがずっと同じでは、せっかくの論旨も聞き手の印象は薄くなってしまい退屈にさせてしまいます。そこで、以下のような工夫をすることを学びました。

(1) 話すスピードや声の大きさに変化を付けること

要点か説明部分か、本論か体験談か、主張したい中心部分か具体例かなどにより、話すスピードを変えたり声の大きさを換えたりすることにより、聞き手は話し手の緩急に合わせて理解してしてくれます。

(2) 間をとること

聞き手は聞いた言葉を頭の中で理解するという過程をたどって話しを聞くので、話し手が思っている以上に理解に時間がかかるものです。また、十分理解したあとに一瞬の沈黙があると、「何かな」と関心をもつものです。

ですから、主に以下の4点を目的として間をとるようにします。

- ① 話の内容をよく理解してもらうとき
- ② 次に話すことに対して期待感をもたせるとき
- ③ 質問に対して考えてもらいたいとき
- ④ 聞き手自身の感情を高めてもらいたいとき

2 聴衆の立場で

聴衆の立場になったとき学ぶべきことは、弁士の立場のときに学びきれなかったことをどれだけ振り返って学び直すことができるかです。

まず、学級弁論大会ではクラスの友達全員の弁論を聞いて評価をすることにより学びがあります。

評価をするにあたっては、評価の高い項目や低い項目があったはずですが、そのとき、「なぜ高くしたのか」「なぜ低くしたのか」を体験的に学んでいるのです。最も望ましいのは、それを論理的に学ぶことですが、そこまでいなくても、次年度の弁論大会の弁士の立場になるときに、「1」で記載した内容を改善していくことができます。

次に、いい作品群から学んでいます。

学年弁論大会や先月の校内弁論大会では、クラス代表・学年代表など、いわゆる評価の高かったいい作品に触れることとなります。したがって、どの作品を聞いても納得したり、感心したり、感動したりしたことと思います。そのとき、聴衆の立場として共通点に気付いているはずですが、「なぜ納得したのか」「なぜ感心したのか」「なぜ感動したのか」などには共通点があり、それが、「1」で記載した内容に関係しているはずなのです。

ですから、前述と同様に、次年度の弁士の立場になるときに改善されるだけでなく、普段の意見文や随筆などを書く際にも表現力が向上し、いい文章を書くことができるようになるのです。

弁論大会を開催する学習効果は以上ですが、実はそのミニチュア版が日々の授業の中でも行われています。

それが、学校経営方針でも掲げている「学び合いの学習」です。この学習では、学習者である子どもが主体となり、自分の考えや感想などを音声言語を媒介として対話を行っており、そこから子どもたちは新たな見方や考え方を学んでいるのです。弁論がそれらの延長にあるというのが本校の教育活動の特徴です。



努力を続けるとそれは習慣になる

家の手伝い・学習・運動、何につけても継続的に努力をすると、それはその人にとってはすでに日常であり習慣となります。

私は、それぞれの人が「努力している」「頑張っている」と言っている内容は、その人の主観であると思っています。一人の人間から見れば、「それはとても大変なことをやっている」と思うことがあれば、逆に「それは案外当たり前のことではないかな」と思うこともあるでしょう。

しかし、それでもいいのです。その人それぞれが「努力している」「頑張っている」と思っているのですから、前号でもお伝えした通り、そこからその人の耐性などが育まれていくのです。そして、それが継続的に行われれば、その人の習慣となり、すでにそれは努力することではなく当たり前のことになっていき、努力することの質が高まっていくのです。

子どもたちの様子を見ていても、授業中に積極的に発言をすること、時間があったら読書をする、学び合いで友達の考えから学んでいること、毎時間熱心に授業に参加していること、毎日部活のトレーニングを続けていることなどの努力の継続は、その子どもにとっては習慣になっているのです。ですから、新たな努力は質が高まり、その努力を継続して習慣化させることにより、その子どもはより成長していくことになるのです。

つまり、一人一人の努力の方向性や大きさは異なっても、それぞれが自らのペースで自らを成長させていくことになるのです。

eライブラリの活用状況

本校ホームページの「学校パワーアップ事業」の欄に掲載しておりますが、私は今年度の「学力向上マニフェスト」で、オンライン学習教材のeライブラリを導入するに当たり、以下の目標を設定しました。

- ①4月から12月までで、子どもたちの中で活用している割合が、令和3年度の48.7%より向上して55.0%を目指す。
- ②4月から12月までの9ヵ月間で、3分の2の6ヵ月以上活用した子どもが、令和3年度の11名より向上して14名を目指す。

毎月集計しておりましたが、4月から12月までの集計で、①4月から12月までの活用率は66.1%となり、②6ヵ月以上活用した子どもは35名であり、いずれの目標も達成していることが分かりました。そして、②の集計をしているときに際立って印象に残ったのが、9ヵ月間、毎月取り組んでいた子どもが3名いたことです。まずは、その3名を以下の通り紹介します。

【9ヵ月間取組者】

1-C	石井 美月姫
2-A	武田 純佳
2-C	武田 隆助

6ヵ月以上取り組んだ35名の子どもたちの中には、例えば8月だけ取り組まなかったなど、1ヵ月だけ取り組めなかった子どもが多くいましたが、先の3名の子どもたちは取り組み方や程度に違いはあるものの、1ヵ月も絶やさずに9ヵ月間取り組んできたということになります。

先ほどの「努力を続けるとそれは習慣になる」でも記載した通り、3名の子どもたちはeライブラリに取り組むことがすでに習慣になっており、おそらく12ヵ月間取り組み続けることになると思います。そして、3名の子どもたちにはすでに耐性が身に付いており、今後の新たな努力はより一層質の高いものになるのではないかと思います。

なお、eライブラリでは「確認テスト」「ドリル学習」「解説教材・確認問題」の3種類に取り組むことができますが、4月から12月までの9ヵ月間で取り組んだ回数が最高だった子どもたちを以下の通り紹介します。

【取組回数最高者】

種類	年組	氏名	回数
確認テスト	1-C	福岡 愛子	98
ドリル学習	2-D	佐藤 怜生	2749
解説教材・確認問題	2-C	山生 悠善	132

種類によって1回に費やす取り組み時間が異なりますので、それぞれを比較することはできません。ただし、全校の中で最も取り組んだということはとても高く評価できますし、先ほどの3名と同様に、努力することが習慣となっており、今後のより質の高い努力に期待がもてます。

学校の施設・設備は用務主事により整備されています

子どもたちは気付いていません、校舎内が用務主事によって衛生環境が保たれ日常の生活の安全が確保されていることを。

用務主事は、子どもたちが登校する前、授業を受けているとき、子どもたちが下校したあと、宿泊行事で登校していないときなどに様々な業務を行っています。

●避難訓練後に砂だらけになった校舎内の清掃 ●日常の消毒作業 ●日常の校舎内外清掃
●学校行事のときの技術的な作業 ●廊下のワックスがけ ●危険箇所や老朽により破損した箇所
の修繕 ●花壇の整備 ●樹木の剪定 ●来客の接待 ●施設関係所管課との協議

その他にも、区役所からの文書を毎日取りに行ったり、学校から発出する文書を届けに行ったり、校長室・職員室の清掃をしたり、学校から出るゴミの分別・保管・廃棄作業なども行っています。

第三中学校は古い校舎で、エアコンが起動しなくなったり、ときに雨漏りなどもしたりしていますが、それらを修繕しながら、きれいな学校を維持しているのは用務主事の働きによるものです。

子どもたちが、用務主事に感謝の気持ちをもてるようになってもらいたいと思います。

お知らせ

●第26回図書館を使った調べる学習コンクール【全国】審査において、以下の成績を収めました。

賞	学年	氏名	作品名
奨励賞	1	伊藤 舞帆	生命の水
	1	高橋 まりな	好き嫌い言ってちゃダメなの?! 1人1人の協力が大切! 食品ロス
	2	佐藤 詩音	コーヒーから変わる世界
佳作	1	小池 帆夏	海が泣いている!? -プラスチックと環境問題-
	2	伊藤 紗英佳	平和~当たり前の日常を送れる幸せ~
	2	鈴木 七海	ジェンダー差別の現状と解決策
	2	福井 くらら	臓器移植でつながるいのち
	2	渡邊 彩恵	男女の格差 なくすために

●令和4年度「あらかわ人権標語」で以下の2名に感謝状が贈られました。

塚田 樹里(2年) 標語:「大丈夫? その一言が 救いの手」

木村 律(2年) 標語:「となりの子 笑顔の裏に 気付いてる?」